



大谷吉継をめぐる戦国人物相関図



関ヶ原合戦図屏風 大谷吉継布陣部分 (敦賀市立博物館蔵)



大谷吉継肖像画 (現代) (右尾多幸氏所蔵)

す。元和の一國一城令により1616年に破却されたとき、その後、跡地には御茶屋、代官所、奉行所等、小浜藩の役所が置かれました。絵図や屏風などに小さく描かれた他は、地元の伝承に残るだけで、長い間、幻の城といわれてきましたが、最近の発掘調査で、城内の建物跡と推定される遺構が発見されました。今後の調査の進展によって敦賀城の解明が進むことが期待されます。

敦賀湊の繁栄をもたらす

戦乱で衰えた京都を復興し、大阪に経済の中心をつくる豊臣秀吉の政策を敦賀で推進したのが吉継です。その象徴的な事例が、秀吉の伏見城築城のための秋田杉(太閤板)を、東北から敦賀に回漕したことです。有力な船持ち商人(道川氏、小宮山氏、田中氏など)が運送に従事しました。

義に生きる

盟友・石田三成との友情を貫き、関ヶ原に散った吉継

戦国時代の終わりを告げる「関ヶ原の合戦」から四百余年。裏切りが常の戦国の世に、盟友・石田三成とともに豊臣への忠義を貫いた敦賀城主・大谷刑部少輔吉継。慶長5年(1600)天下分け目の関ヶ原で、吉継はみすからつくりあげた勝算を胸に、西軍三成側について善戦しましたが、味方の裏切りが続き、大谷軍は全滅。吉継は自害し、ここに生涯を終えました。大谷吉継は不治の病に冒されながらも「忠義と友情」に殉じた戦国の「智将」でした。

信長、秀吉、家康——天下取りへの転換点となった金ヶ崎。

岬の先端に位置し三方を海に囲まれた金ヶ崎は、近江から越前への陸路と海路を押さえる要衝であり、南北朝時代より幾多の戦いが繰り広げられてきました。戦国時代、織田信長は朝倉攻めの際、浅井軍の後方からの攻めにあい撤退を余儀なくされました。

元元元年(1570)	信長、3万の軍勢を率い、京を發つ
4月20日	九里半街道をへて熊川宿へ
4月22日	佐柿(国吉城)に入る。
4月23日	敦賀・妙顯寺に陣を構える
4月25日	天筒山城を落とす
4月26日	金ヶ崎城落城
4月28日	浅井長政の裏切りで信長、総退却
4月30日	朽木谷を越え京へ入る

信長が浅井長政の裏切りをいち早く知り、窮地を脱することができたのは、お市の方が、両端をひもで結んだ小豆袋を、信長の元へ送り、袋のねずみとなることを暗示して知らせたからだとする逸話が残っています。また撤退の際、秀吉は殿(しんがり)を務め、その信を受け、のちに天下取りの道を歩きました。



織田信長軍 第一次越前朝倉攻め進路及び退路図

友情に殉じた武将 敦賀城主 大谷刑部少輔吉継

秀吉の小姓から敦賀城主へ

大谷吉継の出自

京都吉田神社神主の日記『兼見卿記』に、天正20(1592)年に吉継が28歳であると記されていることから、吉継の生年は永禄8(1565)年と考えられます。母親は豊臣秀吉の正室(お祿、高台院)の侍女で「東殿」と呼ばれた女性です。「東殿」の出自はわかっていませんが、秀吉の長浜城主時代には吉継とともに秀吉夫妻に仕えていたようです。父親はわかっていません。近江出身であるともわれていますが、京都青蓮院門跡の坊官(寺務担当の僧侶)大谷家の系図に吉継の名があるので、父親あるいは「東殿」が大谷家である可能性があります。青蓮院は鎌倉時代から敦賀を支配していた実績があり、大谷家のなかに敦賀市内に今もこの地名「勘野(勘生野)」を名乗る一族がありました。敦賀との縁は、吉継の時代より古くからあったのかもしれませんが。

敦賀の町たてを行う

敦賀領主となったのは天正17年、前領主の蜂屋頼隆が9月に亡くなったあと、12月には吉継は敦賀入りしています。敦賀の町立て(都市整備)を行いました。本格的な町割り(都市整備)のもとに、川東、川中、川西と3つのゾーンにわけ、後の敦賀三十六町と繁栄を謳われた都市基盤を整備しました。このために、寺院や商人の屋敷を移転、集住させるなど、諸政策を行なった文書が残っています。

敦賀城を築く

敦賀城の築城は蜂屋頼隆の時代にはじまったといわれますが、本格的に整備・完成したのは吉継の時代で



来迎寺に移設された敦賀城中門 関ヶ原合戦図屏風/右隻(敦賀市立博物館蔵)

戦国歴史浪漫

敦賀城主 大谷吉継とその時代

歴史巡り MAP付き



「よっしー」LINEスタンプ販売中!

敦賀市公認キャラクター

最初の60分 220円

60分を超える30分ごとに110円ずつ追加

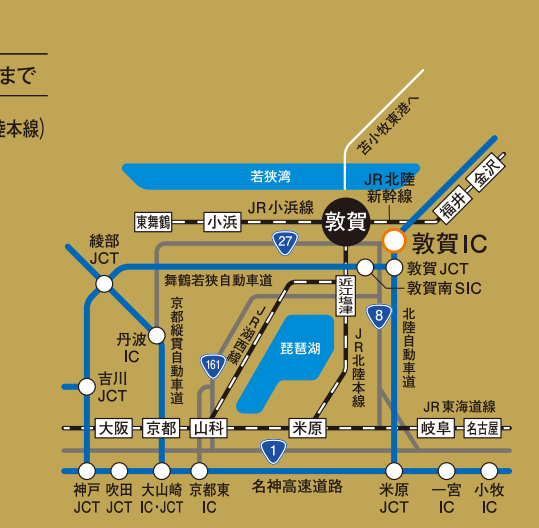
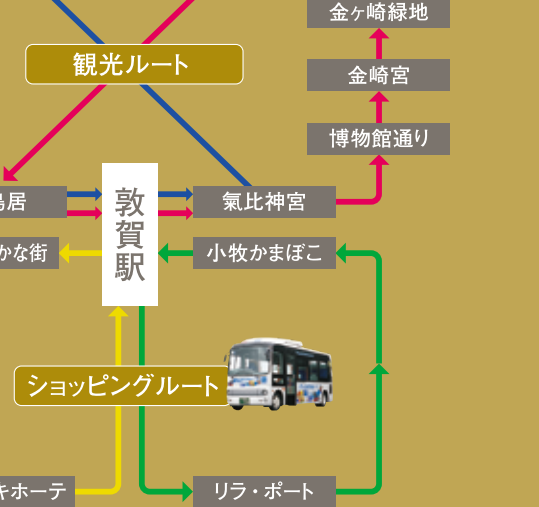
●会員登録にはスマートフォンまたは携帯電話と、クレジットカードまたはドコモ払いが必要です。

●窓口(敦賀駅交流施設オルパーク)にて購入 1,650円

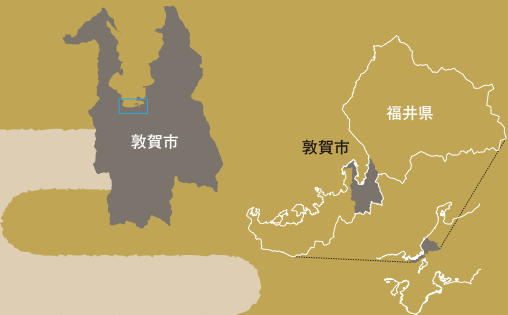
●WEBサイト、コンビニで事前購入 1,430円

https://tsuruga-share-cycle.jp/

0770-20-0689 (受付時間8:00~19:00) つるがシェアサイクル事務局 (敦賀駅交流施設オルパーク総合案内所)



お問い合わせ先 (一社) 敦賀観光協会 ●敦賀市神楽町1丁目1-5 (カゲル 2F) TEL 0770-22-8167 敦賀観光案内所 ●敦賀市鉄輪町1丁目1番19号 敦賀駅交流施設オルパーク内 TEL 0770-21-8686 敦賀市観光交流課 ●敦賀市中央町2丁目1番1号 TEL 0770-22-8128 https://tsuruga-kanko.jp



市内観光、ショッピングに

TSURUGA SHARE CYCLE つるがシェアサイクル

敦賀市内に設置されたサイクルポートのどこでも借りられ、どこでも返すことができる自転車のシェアサービスです。

サイクルポート設置場所

- 敦賀駅
- 氣比神宮前
- 敦賀市立博物館
- きらめきみなと館
- 氣比の松原
- 敦賀市役所
- 敦賀総合運動公園
- 人道の港 敦賀ムセウム
- 白銀交差点
- キッズパークつるが
- おさかな通り
- 敦賀赤レンガ倉庫
- 日本海さかな街
- 柴田氏庭園
- 西福寺

※中面地図内にも設置場所を記載しております。

ぐるっと敦賀周遊バス

JR敦賀駅を起点として市内の主要観光地へアクセスする周遊バスです。午前9時50分から午後5時10分まで(観光ルートは午後4時50分まで)運行しております。

1日フリー券	大人 500円	小児 250円	1乗車	大人 200円	小児 100円
--------	---------	---------	-----	---------	---------

- 小児とは、小学生以下です。但し、未就学児は1人まで無料です。(2人目からは有料となります)
- 乗車券は車内でお求めください。
- 交通事情により運行ルートを調整する場合があります。
- 詳しくは「敦賀市コミュニティバス時刻表」をご覧ください。

0770-25-2111 敦賀観光バス株式会社

敦賀までのアクセス

お車で	敦賀ICまで	電車で	JR敦賀駅まで
名古屋	約1時間40分 (130km)	東京	約3時間 (JR北陸新幹線/JR東海道新幹線・北陸本線)
大阪	約2時間 (170km)	名古屋	約1時間 (JR東海道本線・北陸本線)
京都	約1時間40分 (130km)	大阪	約1時間20分 (JR湖西線)
金沢	約1時間50分 (140km)	京都	約55分 (JR湖西線)
長野	約4時間30分 (370km)	金沢	約50分 (JR北陸新幹線)
東京	約5時間40分 (450km)	長野	約1時間50分 (JR北陸新幹線)

フェリーで

苦小牧東港 直行……約20時間
秋田港(新潟経由)……約20時間



お問い合わせ先 (一社) 敦賀観光協会 ●敦賀市神楽町1丁目1-5 (カゲル 2F) TEL 0770-22-8167 敦賀観光案内所 ●敦賀市鉄輪町1丁目1番19号 敦賀駅交流施設オルパーク内 TEL 0770-21-8686 敦賀市観光交流課 ●敦賀市中央町2丁目1番1号 TEL 0770-22-8128 https://tsuruga-kanko.jp

常宮神社

神功皇后がここで安産祈願し、皇子の応神天皇を無事出産したとの逸話があり、安産の神様として崇められています。吉継が第1次朝鮮出兵(文禄の役)において持ち帰り、秀吉の命によって奉納されたと伝わる「朝鮮鐘」(国宝)が残されています。



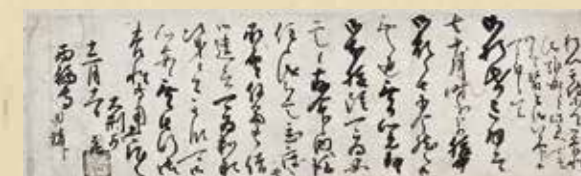
☎ 0770-26-1040
📍 教賀市常宮 13-16



拜殿の目の前には、真っ青な教賀の海がひろがります。

西福寺

応安元年(1368)に良如上人が開いた浄土宗鎮西派の中本山。1400坪にも及ぶ書院庭園は国の名勝に指定されています。朝倉義景や織田信長、大谷吉継など、教賀を治めた歴代の武将たちの書状が数多く残っています。



大谷吉継書状(年不詳12月11日) 西福寺所蔵病に冒された西福寺住職に医者の手配を申し出る書状。吉継の心配りが感じられます。
☎ 0770-22-3926
📍 教賀市原 13-7
🕒 9:00~17:00
👤 大人300円 / 中学生以下無料 (団体30名以上250円)

様々な戦の舞台となった金ヶ崎、大谷吉継が治めた教賀のまち——戦国武将たちが踏みしめた大地、空間がここにあります。戦の舞台やゆかりの地を巡り、戦国の世に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

歴史を訪ねて 教賀をぶらり



教賀城主 大谷吉継 教賀市公設キャラクター よっしー



常宮神社拜殿より教賀湾を望む

八幡神社

教賀城内にあったと伝えられる龍の欄間飾りや礎石、鬼瓦、大谷吉継が寄進した石燈籠など、さまざまな歴史的遺産が残されています。また、信長が奉納したと伝えられる太刀も現存しています。



☎ 0770-22-1193
📍 教賀市三島町 1-3-3
🕒 9:00 ~ 16:00



あっ! こんなところにハトが。

永建寺

教賀城築城にあたって現在の地に移転しました。移転にあたって吉継が寺領を安堵した書状が残されています。



☎ 0770-22-0465
📍 教賀市松島町 9-5

足壇城跡

朝倉家の家臣である足壇対馬守久保が、文明年間(1469~1487)に築いた城で、越前最南端を守る重要な拠点でした。天正元年(1573)、信長による越前攻めの最中に攻められ、その後破却されました。

📍 教賀市足田

玄蕃尾城跡

福井と滋賀の県境、中尾山(標高439m)の山上にあります。天正11年(1583)、柴田勝家により築城されたといわれています。勝家は賤ヶ岳の戦いの際、本陣を構えました。横堀や土塁など、往時の遺構がいまも残っています。

📍 教賀市刀根(中尾山)



敦賀城案内碑

蜂屋頼隆によって築城が始まった敦賀城は、大谷吉継によって完成したと考えられています。元和2年に一国一城令により、廃城されたのち、奉行所、県庁舎(旧・敦賀県)、警察所・裁判所・病院、尋常小学校(現西小学校)と変遷しました。



つるがしょうなんび

真願寺

敦賀城の乾門跡に建てられた真願寺。境内に城の礎石が残り、在りし日の敦賀城をしのべます。

☎ 0770-22-1860
📍 教賀市結城町 14-1



シヤサイクルやハカモ ぐらとて ぐらとて ぐらとて

敦賀市立博物館

旧大和田銀行本店建物(重要文化財)を活用した博物館です。本パンフレット表紙「関ヶ原合戦図屏風」等を所蔵。レトロで趣ある建物と共に、年1回の特別展をはじめ、敦賀の豊かな歴史文化を物語る資料や美術工芸作品などを順次展示替えし、その時々々の展示をお楽しみいただけます。

☎ 0770-25-7033
📍 教賀市相生町 7-8
🕒 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
📅 月(祝日の場合はその翌日) / 祝日の翌平日 / 年末年始
👤 大人300円 / 高校生以下無料 (みなとつるが山車会館との共通券500円) ※家庭の日(毎月第3日曜日)は無料

永賞寺

吉継の菩提寺と伝わる曹洞宗の寺院。吉継の供養塔と伝えられる慶長14年造立の九重の塔(市指定文化財)があります。

毎年9月には供養祭も行われています。
☎ 0770-22-1919
📍 教賀市栄新町 11-20



みなとつるが山車会館

織田信長も見物したといわれる絢爛豪華な山車を展示しています。入口では吉継の武者人形がお迎えし、別館には吉継関連の常設展示があります。吉継をイメージした衣装で記念撮影もできます。

☎ 0770-21-5570
📍 教賀市相生町 7-6
🕒 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
📅 月(祝日の場合はその翌日) / 祝日の翌平日 / 年末年始 / 山車メンテナンスにあたる週(9月中旬)
👤 大人300円 / 高校生以下無料 (敦賀市立博物館との共通券500円) ※家庭の日(毎月第3日曜日)は無料

氣比神宮

大宝2年(702)の建立と伝えられている、北陸道の総鎮守。織田信長の越前朝倉攻めにより氣比神宮は灰燼に帰し、社僧離散、社領没収、祭祀廃絶するまでに至りましたが、慶長19年(1614)に越前福井藩祖によって社殿造営。社家復興となりました。平成28年(2016)には氣比神宮境内が名勝「おくのほそ道の風景地(けいの明神(氣比神宮境内))」に指定されました。また、令和3年(2021)に「氣比神宮にのぼる月」が日本百名月に登録されました。

☎ 0770-22-0794
📍 教賀市曙町 11-68
🕒 6:00 ~ 17:00



日本三大木造鳥居